

人権週間 「誰かのことじゃない」(12/4～10)

～毎年12月10日は「人権デー (Human Rights Day)」です～

令和3年12月4日(土)～12月10日(金)は、第73回人権週間です。「誰かのことじゃない」は今年の人権週間のテーマです。

1948年12月10日、国際連合の第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。「世界人権宣言」は、基本的人権の尊重に関する原則を定めたものです。人権保障の目標と基準が初めて国際的に述べられた画期的なものです。「世界人権宣言」の採択日である12月10日は、「人権デー (Human Rights Day)」と定められています。法務省の人権擁護機関では1949年から毎年人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定めています。その期間中、各関係機関及び関係団体が協力して、全国各地で集中的に人権啓発活動が行われます。人権を尊重する気持ちを高め、広げるための取り組みが全国各地で行われます。

例えば、12月3日(金)～12月9日(木)は「障害者週間」です。わが国では、障害者基本法に基づいて、毎年12月3日から9日までを「障害者週間」と定めています。障がいのある人々が社会、経済、文化などのあらゆる分野での活動に積極的に参加することなどを進めています。障がいのある人々の自立及び社会参加を支援するための様々な取り組みが行われます。

残念なことに、今なお、新型コロナウイルス感染症の感染者等に対する偏見や差別、いじめや虐待、インターネット上における誹謗中傷、外国人や障がいのある人、ハンセン病元患者やその家族などに対する偏見や差別など、様々な人権問題が依然として存在しています。これらの問題を解決し、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」が掲げる「誰一人取り残さない」社会を実現するためには、私たち一人一人が人権尊重の重要性を改めて認識し、他者の人権に配慮した行動を取ることが大切です。この機会に、人権について改めて考えてみましょう。

一中スタンダードである「仲間のことを尊重し、大切な存在に思う」ことは、人権について考えるはじめの一歩です。また、自分のことを大切にすることは、他の人を大切にすることはいつも生徒のみなさんにお話してますね。

自分のこと 将来のこと 今、思っていること～3年生 個人面接～

3年生の個人面接を11月10日(水)から22日(月)にかけて行いました。卒業後の進路や進路先でやってみたいこと、中学校生活で学んだことや得たこと、中学校生活で思い出に残っていることなどを1人5分程度でしたが、聞かせてもらいました。

1年半以上に渡る新型コロナウイルス感染症の影響により、自分たちの思うようにいかないことばかりだったと思いますが、そのような状況にあっても、自分自身を見つめて将来のことをいろいろと考えていることに本当に感心しました。また、学校行事や部活動などを通して、仲間とのつながりを大切にしながら日々の学校生活を送っていること、その中で学び、成長できていることを自分の言葉と表情・表現で話してくれました。

その中でも特に印象的だったことが2つあります。1つは、「あいさつができるようになった」と多くの生徒が話してくれました。家の近所の人に出会ったときに、「自然とあいさつができるようになり、そこから会話もできるようになりました」という生徒も数名いました。

一中スタンダードである「心のこもったあいさつができる」ということが中学校生活を通して身につけていることをとてもうれしく思いました。もう一つは、「当たり前前(あたりまえ)のことが、当たり前前(あたりまえ)にできるようになった」ということです。数名の生徒からの言葉でした。あいさつもその一つですが、ルールを守ることの必要性やていねいな言葉づかいができるようになったこと、そして、仲間とともに取り組むことの大切さなどを話してくれました。

面接を通して、生徒のみなさんから「なるほど!」と思うことをたくさん学ばせてもらうと同時に、元気をもらいました。本当に頼もしい限りです。1・2年生のみなさん、3年生が卒業するまでの間にその言動から、これまで学んできた通り、引き続き学んでいきましょう。